裁判へのご支援・ご協力を！
2017年09月01日　140号

生活保護制度を良くする会
# ニュース

事務局　道生連
電話　011-736-1722
ファックス　011-736-1688
メール　seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp

# 第5回総会、原告・支援者101名が参加！

8月26日(土)、「生活保護制度を良くする会」は札幌市内で第5回総会を開催、「新・人間裁判」の原告26人をはじめ、弁護団・支援者合計101人が参加しました。黒澤幸一・道労連議長による記念講演のあと、総会では1年間の活動報告と運動方針財政、新役員体制が提案され、承認されました。

## 社会保障の前進は平和な社会を守ることにつながる

開会の挨拶は、肘井博行共同代表が行い、次のように述べました。

60年前、朝日茂さんが人間裁判を提訴しました。一審は全面的勝利でした。これを機に生活保護費の引き上げが行われ、朝日訴訟は日本の社会保障を前進させる裁判となりました。

私たちが闘っている「新・人間裁判」は、今日特別な意味を持っています。それは安倍首相が戦争する国づくりを進めているもとでの闘いだからです。国が戦争の準備をする時、軍事費が増やされ、その一方で社会保障が削られ、国民の命とくらしに関する予算がドンドン減らされていきます。生活保護費の引き下げは、その第一歩でした。もう一面が、国が情報をコントロールし、自由な運動も制限するようになる、それが機密保護法あり、共謀罪です。

生活保護を守り前進させる闘いは、社会保障の基盤を守り、削減を止めることになると同時に、今日では「戦争への道」を止めることにもつながります。こうした視野に立って、この裁判闘争を大きく前進させていきましょう。

## 声を上げられないでいる人たちの分も頑張る決意です

7月15日に行われた私たち原告を励ますコンサート、本当に素晴らしいもので、なんとしても頑張りぬいて勝利しよう！と言う思いを強くしました。

私は、団地で町内会の役員をやっていたこともあり、住民のみなさんがどんな状況で生活しているかを見て来ました。生活保護を受けている方も多くおりましたが、みなさん、生活保護を受けているとは口に出せない。ひっそりと生活しているのです。

裁判で闘う事を決意した時、そして原告団長をお引き受けする時、私はこうした声なき声を代弁する、こうした人たちのためにも頑張って、最低生活の保障を国に求めることは国民の権利なんだという事を訴えていこう、誰もが堂々と声に出せる社会に少しでも近づけたい、そう思いました。初心に却って頑張ります。

## 闘いは六合目。学者・研究者から意見書を提出

弁護団を代表して山本完自弁護士が次のように挨拶しました。

登山で言えば、6合目あたりまで来たと言う所です。今後は3名の学者・研究者の方が4通の意見書を提出します。次の裁判では、木下先生がまとめられた生活実態アンケートの分析結果を提出します。また、北海道新聞がスクープした物価指数決定の時の「2分の1」問題も取り上げ、反論して行きます。

また、今日、記念講演でふれられていた最低生計費調査の結果は、健康で文化的な最低限度の生活を保障する生活保護基準がどこを目指すのかを示したものだと言えます。こうした調査結果も裁判に活かしていきたいと思います。

## 新たな広がりを創るために原告・世話人を支えて

原告世話人代表の細川久美子さんは、次のように話しました。

生活保護費の引き下げに対して、「これ以上どうやって切り詰めろと言うのか?」と130人以上の利用者が審査請求に立ちあがりました。そして、知事の裁定が「単に不満を述べているにすぎない」と却下したことへの怒りが、153人の原告を生んだのです。

この裁判を支えるために幾つのも団体が共同する「良くする会」ができ、原告を地域で支える原告世話人が各地にいます。こうした組織があるのは日本中で北海道だけなんです。

この闘いに勝利するために、これから地域や職場への広がりが求められます。どうぞ、原告を支え、世話人を支えるのに、物心両面で大きな力を寄せて頂きたい。

どうぞ、よろしくお願いします。

## 生活保護への偏見など考え方を変えてもらう裁判

閉会の挨拶を肘井博行弁護士が引退されたことで、新たに共同代表に選出された大賀浩一弁護士が行いました。

私は労働相談や青年後見人制度に関する相談を多く扱っておりますが、生活を支えるために生活保護制度を利用する機会が多いのです。一方で、制度への偏見が少なくないことを感じています。ですから、この裁判を通じて生活保護への偏見やスティグマをなくしていかなければないと感じています。それは、考え方を変えてもらうということです。そのためにはどのような接近が必要か、そうした視点も大事になってきます。大きく運動を前進させていきましょう!